

# ボランティア情報誌

# ボラモシ



こんにちは！「ボランティアセンターごとう」です。  
情報誌の第4号をお届けいたします。

発行が遅くなり申し訳ありません。昨年から続けての登録を頂いた方、また、本年度からご登録を頂いた方、リニューアルして2年目の「ボランティアセンターごとう」をよろしくお願ひします。

※今年度は4回の発行を予定しています。



## ボランティアセンター ＜登録者数＞

- ・個人 29名
- ・団体 21団体 (279名)

合計308名  
(平成22年5月31日現在)

## ～ボランティア募集・活動申込の流れ～

### <ボランティアを募集したい>

- ①まずはお電話ください。  
0959-74-5511 (担当:入江)
- ②受付  
広報には時間が掛かります。遅くとも希望日の1ヵ月以上前にお申し込みください。
- ③募集をかける
- ④希望者が申し込む
- ⑤募集先に報告  
となります。

### <ボランティア活動をしたい>

- ①募集内容を確認  
ボランティア募集のチラシ等
  - ②センターに申込  
・電話 0959-74-5511 (担当:入江)  
・メール svc@goto-shakyo.or.jp
  - ③活動  
となります。
- ※詳しくは担当まで！

## ★平成21年度 センター活動報告★

### ○ボランティアセンターごとうへの相談件数 29件 (内訳)

- ・ボランティア活動全般 9件
- ・ボランティア募集 6件
- ・ボランティア活動申込 7件
- ・福祉、ボランティア学習 7件

### ○募集に応募があった活動

- ・ボランティア給食(調理) 2名
  - ・買い物サポート(デイサービス) 1名
  - ・クリスマスこども大会 10名
  - ・障がい者和い輪まつり 1名
- <中止になりました>

### ○広報誌の発行回数 3回

### ○登録人数 個人・団体合わせて483名

### ○保険事務のみ行った件数及び団体数

6件(7団体213名)



イメージキャラクター

「チョボ」

現在登録をされている方は  
こんな活動を希望しています

- 翻訳 (英語)
- 施設での活動 (お手伝いや出し物)
- 環境美化活動
- とにかくなんでも！ etc

現在、活動受入れを希望される団体、施設を受け付けております。

お申込は下記ボランティアセンターまで!!!!

## ボランティア活動保険に加入しましょう!

ボランティア活動中の様々な事故によるケガや賠償責任を補償します。

詳しくは・・・ふくしの保険

(<http://www.fukushihoken.co.jp>)

※ボランティアセンターごとう登録者はBプラン加入済み

ボランティア活動の申込・ご質問なら

「ボランティアセンターごとう」

(五島市社会福祉協議会内)

電話：74-5511 FAX：74-5666 (担当：入江)

E-mail：svc@goto-shakyo.or.jp

## ☆活動を振り返って (昨年、活動に参加された方に感想を頂きました)

### ゆうなぎ祭りに参加して

富江町桑の実作業所  
代表 松崎律子

私ども桑の実作業所は平成21年9月26日(日)に開催されました(ゆうなぎ祭り)にボランティア活動の一環として参加させていただきました。これは、五島市社会福祉協議会ボランティアセンターごとうが発行しましたボランティア情報誌ボラモン第001号で「ゆうなぎ祭りイベント協力ボランティア募集」のを知り、早速ボランティアセンターごとうに連絡し実現いたしました次第です。(ゆうなぎ祭り)の当日は好天気恵まれ、たくさんの方々がお出でくださっている中で舞台発表をさせていただきました。演目は水前寺清子の(三百六十五歩のマーチ)と北島三郎の(まつり)です。ゆうなぎ祭りのプログラムは、歌と、ピアノに始まり、ギターの演奏、フラダンス、演舞、マジック、コーラス、カラオケ大会、ビンゴゲームなど多彩でした。

何より目を引いたのはユニークな舞台作りです。舞台の前面も背面も側面も新聞紙を貼り巡らして拵えてありました。桑の実作業所が参加したのはスタッフを入れて16名でしたが、日頃の練習を精一杯ご披露する事ができて、観てくださった方々から、よかったと喜んでいただいてこんな幸せな事はありませんでした。

私どもボランティアグループは、桑の実作業所を利用している障がいを持っている人達と、その保護者、桑の実作業所に賛同援助して下さる方達の参加を得て平成6年から活動しています。活動の場所は、デイサービス、老人ホーム、グループホーム等要請があれば土曜日曜も厭わず都合のつく限り出掛けに行きます。又、収集ボランティアでリングプルを集めて老人ホームに届けたり作業所の近くの道路の除草清掃等も気がついた時ボランティアをしています。

障がいを持っている人は、疎まれることはあっても感謝されたり感動されたりすることは少ないとの思いから始めました。自分たちの出来ることでボランティアをして有難うと感謝されたり、涙の出るほど感動したなどと賛辞を浴びたりすると、彼等の表情はいきいきとして、生きている喜びを心と身体で感受することができるのです。日頃は、ボランティアを受ける弱者であっても、自分たちに出来るボランティアを見つけて活動出来ることの幸せを感謝しています。そして、ボランティア精神が息づく町や、地球であったらどんなにか人々は幸せな事かと思えます。見返りを求めない崇高なボランティア精神こそが人間性を高め平和をもたらしてくれるのではないのでしょうか。

これからも、どうぞ桑の実作業所をよろしく願います。